

②農村計画学会2003年度秋期シンポジウム

テーマ：農山村における環境管理の新しい形とその展望

大会実行委員会
学術交流委員会

趣旨：かつて、わが国の山河、田園、森林は集落社会の力によって、細やかに環境管理がなされ、本質的に豊かで、多様性に満ちた生産環境を形成し、災害に強い、美しい国土を維持してきた。過疎化や高齢化等により、地域主体による土地管理の力が衰え、圃場や山林の荒廃が叫ばれて久しい。とりわけ昨今の経済状況は、農山村の土地経営のビジョンをさらに困難なものにしてきたのも事実である。だが一方、いま地域運営の新たな方法が登場し、環境管理の新しい形が各地で生まれはじめている。都市農村連携やNPOの参画協働などの事例を紹介しつつ、今後の展望について討論を深めたい。

日時：2003年12月12日（金） 13：20～17：20

場所：神戸大学瀧川記念学術交流会館（〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1）

プログラム：

進行司会		一ノ瀬友博（姫路工業大学自然・環境科学研究所） 三宅康成（姫路工業大学環境人間学部）
開会挨拶	13：20	石田憲治（学術交流委員長、農業工学研究所）
趣旨説明	13：25	重村 力（大会実行委員長、神戸大学工学部）

講演1 棚田オーナー制度による景観保全と環境管理 一兵庫県加美町岩座神を例として—（仮題）
13：30～14：00 津川兵衛（神戸大学農学部）

講演2 クラインガルテンによる農村集落の再活性化 一兵庫県朝来町の事例—（仮題）
14：00～14：30 山崎寿一（神戸大学工学部）

講演3 森林の持続可能性とその管理主体の変遷 一奈良県川上村・吉野林業を事例として—（仮題）
14：30～15：00 藤本高志（大阪経済大学経済学部）

休憩 15：00～15：20

パネルディスカッション

15：20～17：20 座長 星野 敏（神戸大学農学部）
数名による事例報告（各10分程度、報告者は交渉中）の後、講演者を含めた総合討論を行います。

閉会挨拶 17：20 重村 力